

調査結果の概要

I 発育状態

1 平均体格

平成18年度の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園における児童、生徒及び幼児の身長、体重、座高の平均を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

(1) 身長 (表1, 図1, 図2)

男子の身長(平均値、以下同じ)は、6歳、10歳、12歳、13歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の身長差が最も大きいのは、12歳～13歳の7.7cmとなっている。

女子の身長は、13歳、14歳、16歳、17歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。

各年齢間の身長差が最も大きいのは10歳～11歳の7.0cmとなっている。

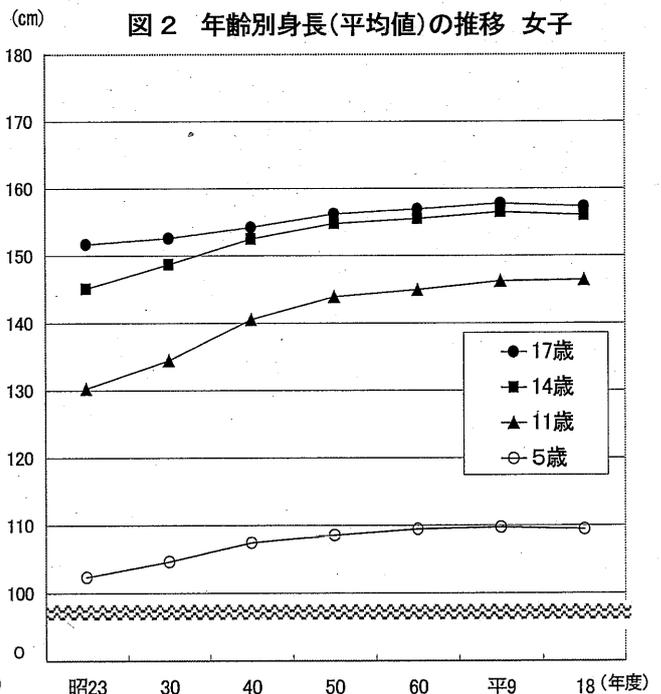
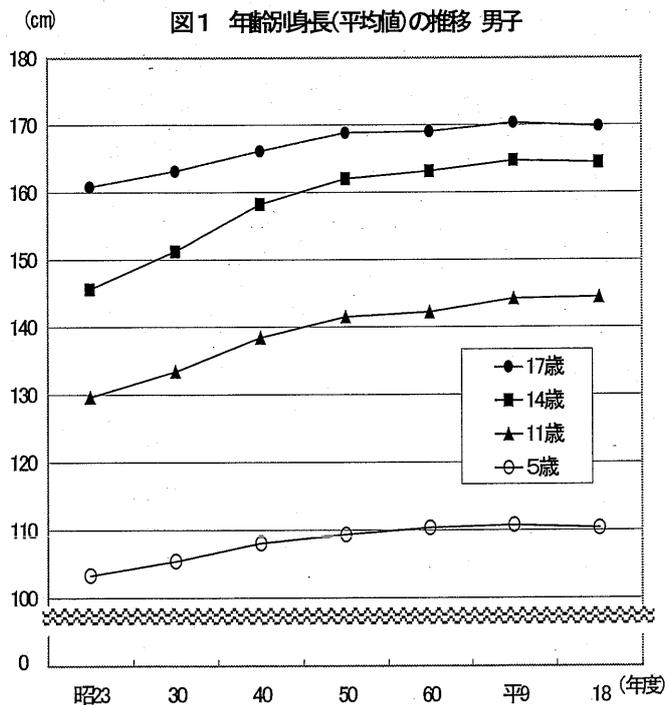
調査開始した昭和23年以降でみると、女子の13歳で過去最高値となっている。

表1 男女別年齢別 身長(平均値)

(cm)

男女・年度	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男子	18年度	110.3	116.4	122.1	127.4	133.0	138.9	144.4	151.8	159.5	164.4	167.3	168.8	169.8
	17年度	110.5	116.3	122.3	127.9	133.1	138.7	144.4	151.7	158.5	164.7	167.6	169.1	170.8
	差	△0.2	0.1	△0.2	△0.5	△0.1	0.2	0.0	0.1	1.0	△0.3	△0.3	△0.3	△1.0
女子	18年度	109.4	115.2	121.4	126.8	132.6	139.4	146.4	151.2	154.8	156.0	156.6	157.5	157.3
	17年度	109.4	115.3	121.6	127.4	132.9	140.1	146.5	151.8	154.6	155.8	156.7	156.6	157.1
	差	0.0	△0.1	△0.2	△0.6	△0.3	△0.7	△0.1	△0.6	0.2	0.2	△0.1	0.9	0.2

(注) 下線部は、調査実施以来の過去最高を示す。



(2) 体重 (表2, 図3, 図4)

男子の体重(平均値。以下同じ)は、12歳、13歳、14歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。各年齢間の体重差が最も大きいのは、11歳~12歳の6.1kgとなっている。

女子の体重は、7歳、14歳、16歳、17歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。

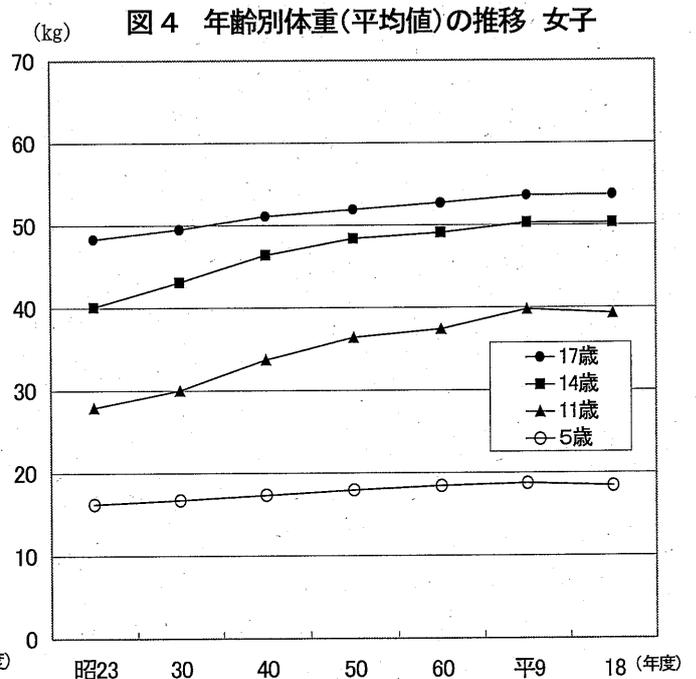
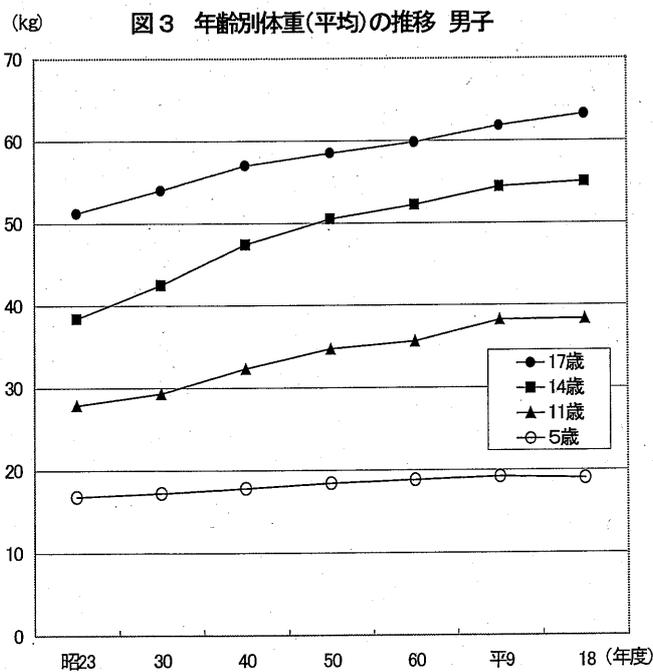
各年齢間の体重差が最も大きいのは、10歳~11歳の5.4kgとなっている。

調査開始した昭和23年以降でみると、女子の7歳及び17歳で過去最高値となっている。

表2 男女別年齢別 体重(平均値) (kg)

男女・年度	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男子	18年度	19.0	21.1	24.2	27.0	30.1	34.3	38.3	44.4	50.0	55.0	59.4	63.2	
	17年度	19.0	21.4	24.2	27.2	30.7	34.6	38.5	44.0	49.2	54.9	59.8	61.3	
	差	0.0	△0.3	0.0	△0.2	△0.6	△0.3	△0.2	0.4	0.8	0.1	△0.4	△0.5	
女子	18年度	18.4	20.7	<u>23.7</u>	26.5	29.4	33.9	39.3	44.4	47.8	50.3	51.4	53.2	<u>53.7</u>
	17年度	18.5	20.9	23.6	26.5	29.7	34.7	40.3	44.4	47.8	49.7	52.3	52.9	53.6
	差	△0.1	△0.2	0.1	0.0	△0.3	△0.8	△1.0	0.0	0.0	0.6	△0.9	0.3	0.1

(注) 下線部は、調査実施以来の過去最高を示す。



(3) 座高 (表3, 図5, 図6)

男子の座高(平均値。以下同じ)は、5歳、10歳、11歳、13歳、16歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。各年齢間の座高差が最も大きいのは、12歳~13歳の3.8cmとなっている。

女子の座高は、5歳、16歳、17歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。

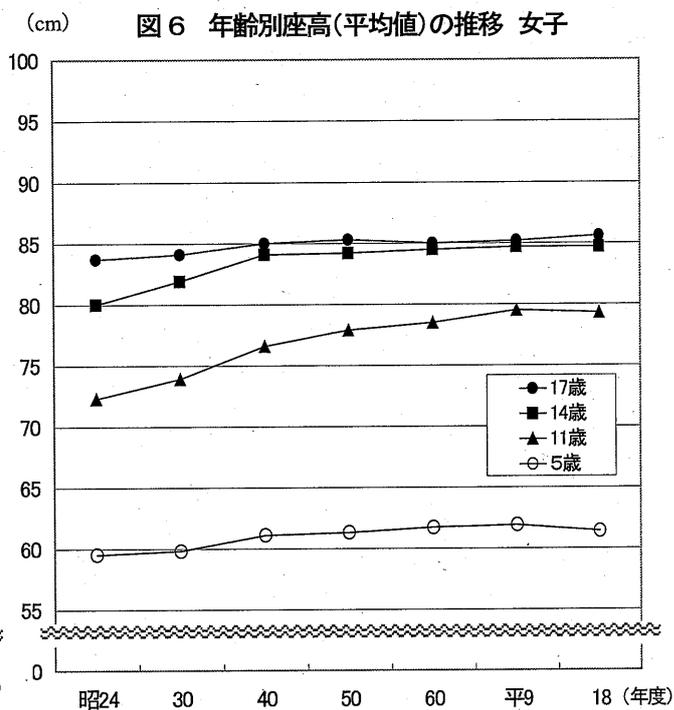
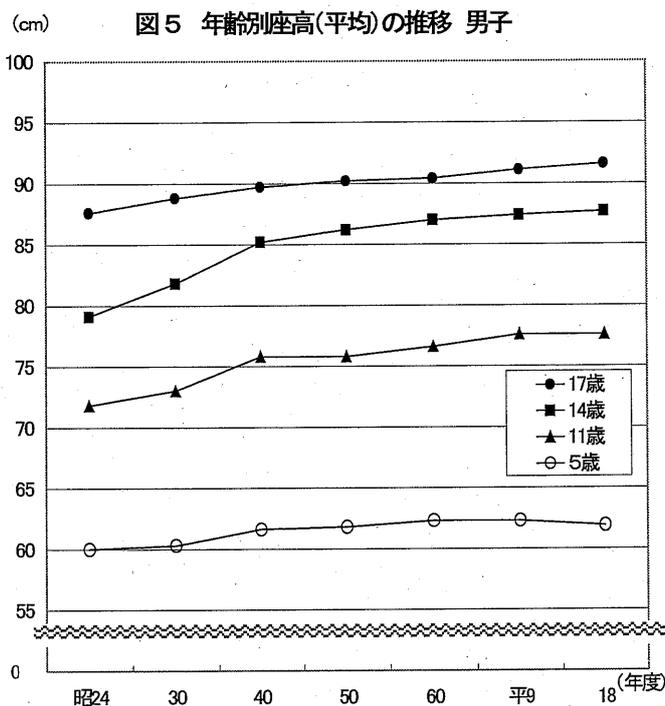
各年齢間の座高差が最も大きいのは、10歳~11歳の3.5cmとなっている。

表3 男女別年齢別 座高 (平均値)

(cm)

男女・年度	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男子	18年度	61.9	64.8	67.5	70.1	72.4	<u>75.2</u>	77.6	81.1	84.9	87.7	89.9	90.8	91.6
	17年度	61.7	64.8	67.5	70.3	72.7	75.1	77.5	81.2	84.3	88.0	90.0	90.7	91.8
	差	0.2	0.0	0.0	△0.2	△0.3	0.1	0.1	△0.1	0.6	△0.3	△0.1	0.1	△0.2
女子	18年度	61.4	64.3	67.3	69.8	72.4	75.8	79.3	82.0	83.7	84.7	85.2	<u>85.8</u>	<u>85.6</u>
	17年度	61.1	64.5	67.4	70.0	72.7	76.1	79.4	82.5	83.8	84.8	85.3	85.3	85.3
	差	0.3	△0.2	△0.1	△0.2	△0.3	△0.3	△0.1	△0.5	△0.1	△0.1	△0.1	0.5	0.3

(注) 下線部は、調査実施以来の過去最高を示す。



2 親世代の体格との比較 (表4)

平成18年度と親の世代である30年前の昭和51年度の体格を比較してみると、男子5歳の座高を除き、身長、体重、座高、すべてにおいて平成18年度で向上している。

男子の身長をみると、最も差があるのは、11歳で、親の世代より3.1cm高くなっている。体重は、17歳で4.5kg重くなっている。座高は、12歳で1.7cm高くなっている。

女子の身長をみると、最も差があるのは、11歳で、親の世代より2.2cm高くなっている。体重は、12歳で2.6kg重くなっている。座高は、11歳、12歳でそれぞれ1.0cm高くなっている。

表4 親世代の体格との比較

男女・校種・年齢			身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)			
			平成 18年度	昭和 51年度	差	平成 18年度	昭和 51年度	差	平成 18年度	昭和 51年度	差	
男子	幼稚園	5歳	110.3	109.2	1.1	19.0	18.5	0.5	61.9	61.9	0.0	
		6歳	116.4	114.8	1.6	21.1	20.3	0.8	64.8	64.5	0.3	
	小学校	7歳	122.1	120.3	1.8	24.2	22.7	1.5	67.5	67.1	0.4	
		8歳	127.4	126.1	1.3	27.0	25.4	1.6	70.1	69.8	0.3	
		9歳	133.0	131.0	2.0	30.1	28.1	2.0	72.4	71.8	0.6	
		10歳	138.9	136.4	2.5	34.3	31.6	2.7	75.2	74.2	1.0	
		11歳	144.4	141.3	3.1	38.3	34.5	3.8	77.6	76.2	1.4	
	中学校	12歳	151.8	148.8	3.0	44.4	40.3	4.1	81.1	79.4	1.7	
		13歳	159.5	156.5	3.0	50.0	45.9	4.1	84.9	83.3	1.6	
		14歳	164.4	162.3	2.1	55.0	51.2	3.8	87.7	86.5	1.2	
	高等学校	15歳	167.3	166.0	1.3	59.4	55.5	3.9	89.9	89.1	0.8	
		16歳	168.8	167.6	1.2	60.8	57.2	3.6	90.8	89.9	0.9	
		17歳	169.8	168.4	1.4	63.2	58.7	4.5	91.6	90.7	0.9	
	女子	幼稚園	5歳	109.4	108.5	0.9	18.4	18.1	0.3	61.4	61.3	0.1
			6歳	115.2	114.1	1.1	20.7	20.0	0.7	64.3	64.2	0.1
		小学校	7歳	121.4	120.0	1.4	23.7	22.4	1.3	67.3	66.8	0.5
			8歳	126.8	125.4	1.4	26.5	25.0	1.5	69.8	69.3	0.5
9歳			132.6	130.7	1.9	29.4	27.9	1.5	72.4	71.7	0.7	
10歳			139.4	137.7	1.7	33.9	32.2	1.7	75.8	75.1	0.7	
11歳			146.4	144.2	2.2	39.3	36.9	2.4	79.3	78.3	1.0	
中学校		12歳	151.2	149.6	1.6	44.4	41.8	2.6	82.0	81.0	1.0	
		13歳	154.8	153.0	1.8	47.8	46.0	1.8	83.7	83.0	0.7	
		14歳	156.0	154.8	1.2	50.3	49.0	1.3	84.7	84.1	0.6	
高等学校		15歳	156.6	155.4	1.2	51.4	50.4	1.0	85.2	84.8	0.4	
		16歳	157.5	155.6	1.9	53.2	51.5	1.7	85.8	84.9	0.9	
		17歳	157.3	156.2	1.1	53.7	52.1	1.6	85.6	84.8	0.8	

3 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率 (表5)

平成18年度の肥満傾向児の出現率は、男子・女子ともに12歳で最も高く、5歳で最も低い。

一方、痩身傾向児の出現率は、男子では15歳で最も高く、6歳で最も低く、女子は13歳で最も高く、7歳で最も低い。

表5 年齢別 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率 (単位：%)

校種・年齢		肥満傾向児の出現率		痩身傾向児の出現率	
		男子	女子	男子	女子
幼稚園	5歳	3.0	1.0	0.4	0.4
	6歳	3.0	3.5	0.0	0.6
小学校	7歳	5.8	5.2	0.4	0.3
	8歳	7.0	8.2	0.3	0.5
	9歳	7.9	6.9	1.6	1.7
	10歳	10.7	8.5	1.5	2.6
	11歳	12.3	9.8	1.6	2.4
中学校	12歳	15.2	11.3	1.7	1.9
	13歳	14.5	11.2	0.8	4.3
	14歳	12.4	10.4	1.4	2.5
高等学校	15歳	15.1	8.8	2.7	2.4
	16歳	9.8	9.4	1.3	0.6
	17歳	12.0	9.5	0.1	0.5

(注) 1 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。以下の各表において同じ。

算式は、次のとおりである。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

(注) 2 痩身傾向児とは、肥満度が-20%以下の者である。以下の各表において同じ。

II 健康状態

1 主な疾病・異常の被患率 (表6)

平成18年度の定期健康診断における児童、生徒及び幼児の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても「むし歯(う歯)」の者(処置完了者を含む。以下同じ)が1位となり、次いで「裸眼視力1.0未満の者」や「鼻・副鼻腔疾患」となっている。

表6 主な疾病・異常の被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯(う歯)	39.1	むし歯(う歯)	63.7	むし歯(う歯)	52.8	むし歯(う歯)	65.2
2	鼻・副鼻腔疾患	8.2	裸眼視力1.0未満	27.2	鼻・副鼻腔疾患	9.7	鼻・副鼻腔疾患	8.3
3	眼の疾病・異常	4.1	鼻・副鼻腔疾患	12.3	歯肉の状態	6.6	歯垢の状態	6.6
4	アトピー性皮膚炎	4.0	眼の疾病・異常	6.6	歯垢の状態	5.7	歯肉の状態	5.6
5	耳疾患	3.0	アトピー性皮膚炎	4.6	眼の疾病・異常	5.3	心電図異常	4.8
6	ぜん息	1.9	歯列・咬合	4.3	歯列・咬合	4.6	眼の疾病・異常	4.5
7	その他の皮膚疾患	1.6	歯垢の状態	3.8	心電図異常	3.4	歯列・咬合	4.2
8	蛋白検出の者	0.9	耳疾患	3.7	蛋白検出の者	3.4	蛋白検出の者	3.5
9	口腔咽喉頭疾患・異常	0.8	歯肉の状態	3.5	アトピー性皮膚炎	3.1	アトピー性皮膚炎	2.4
10	歯列・咬合	0.5	ぜん息	3.2	耳疾患	2.8	耳疾患	2.0

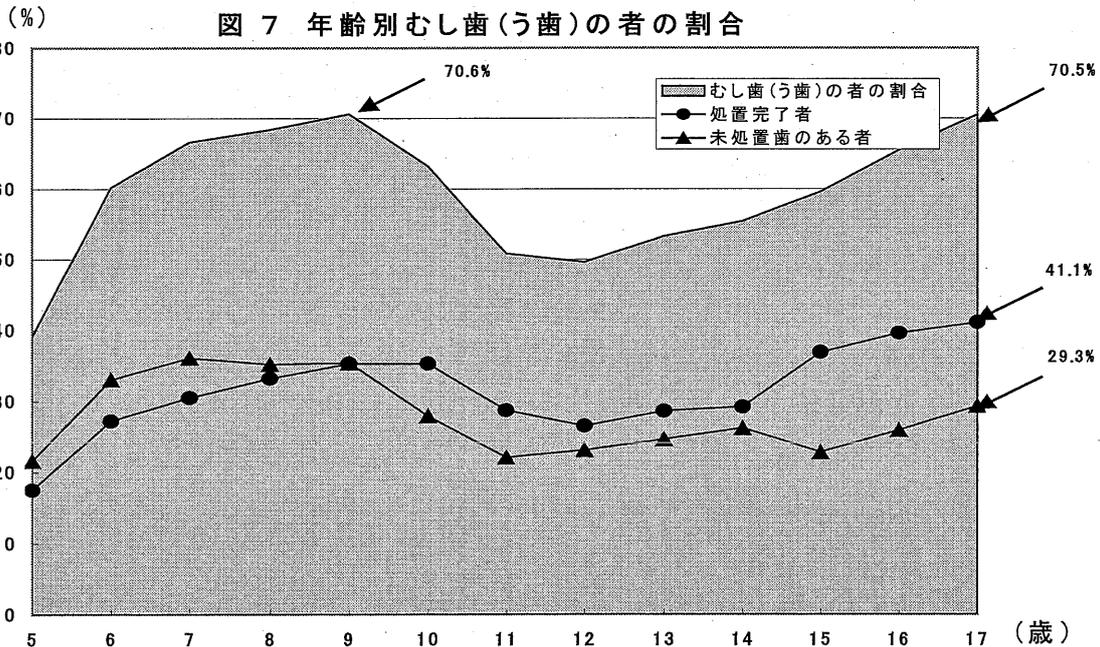
(注) 幼稚園・中学校・高等学校の「裸眼視力1.0未満の者」は、公表されていない。

2 主な疾病・異常の状況

(1) むし歯(う歯) (図7)

平成18年度の「むし歯(う歯)」の者の割合は、幼稚園が39.1%、小学校63.7%、中学校52.8%、高等学校65.2%となっている。

「むし歯(う歯)」の者の割合を年齢別にみると9歳が70.6%と最も高く、次いで17歳が70.5%となっている。また、処置完了者の割合は、10歳以降未処置歯のある者の割合を上回っている。



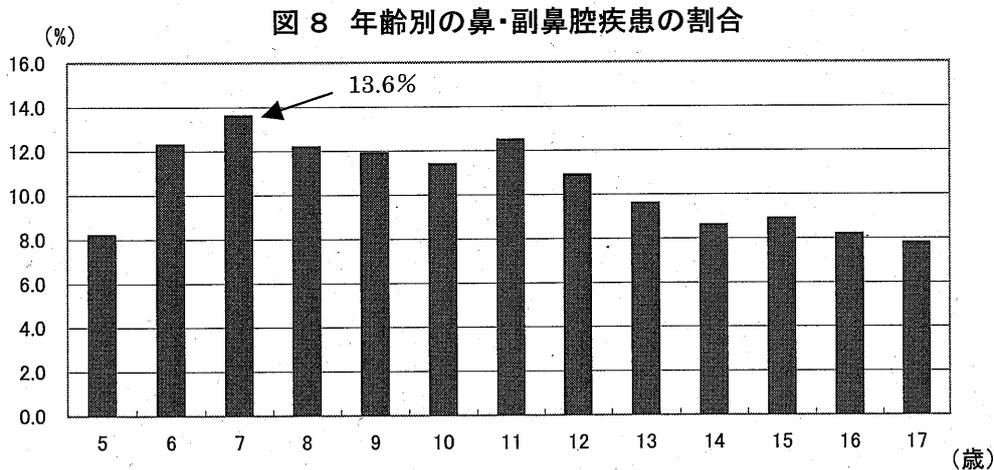
(2) 裸眼視力 1.0 未満の者

平成 18 年度の「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、小学校 27.2%となっている。

(3) 鼻・副鼻腔疾患 (図 8)

慢性副鼻腔炎（蓄のう症）、慢性的症状の鼻炎及び花粉症等の鼻・副鼻腔疾患は、幼稚園では 8.2%，小学校 12.3%，中学校 9.7%，高等学校で 8.3%となっている。

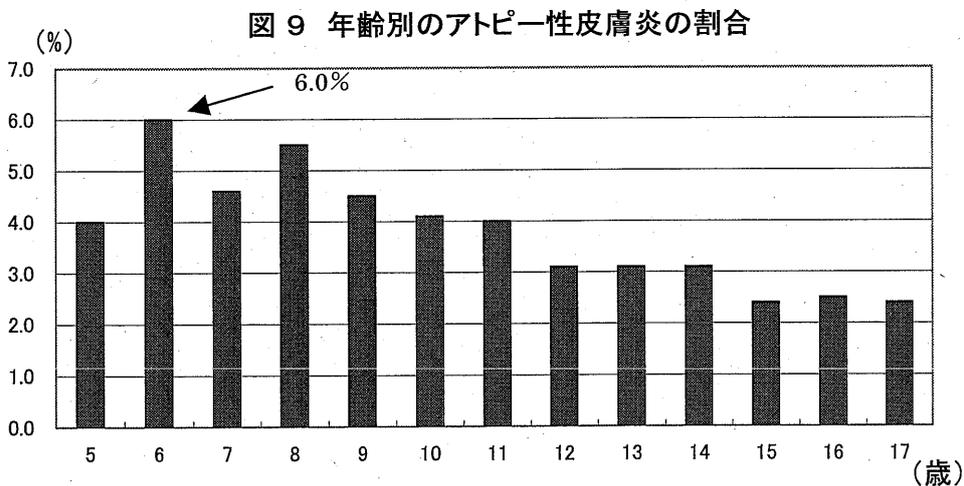
「鼻・副鼻腔疾患」の割合を年齢別でみると 7 歳が 13.6%と小学校の低学年で高く、その後高学年につれて低くなる傾向となっている。



(4) アトピー性皮膚炎 (図 9)

平成 18 年度から新たに調査項目となった、アトピー性皮膚炎は幼稚園では 4.0%，小学校 4.6%，中学校 3.1%，高等学校で 2.4%となっている。

「アトピー性皮膚炎」の割合を年齢別にみると、6 歳の 6.0%が最も高く、年齢が進むにつれて、低くなる傾向となっている。



III 全国値との比較

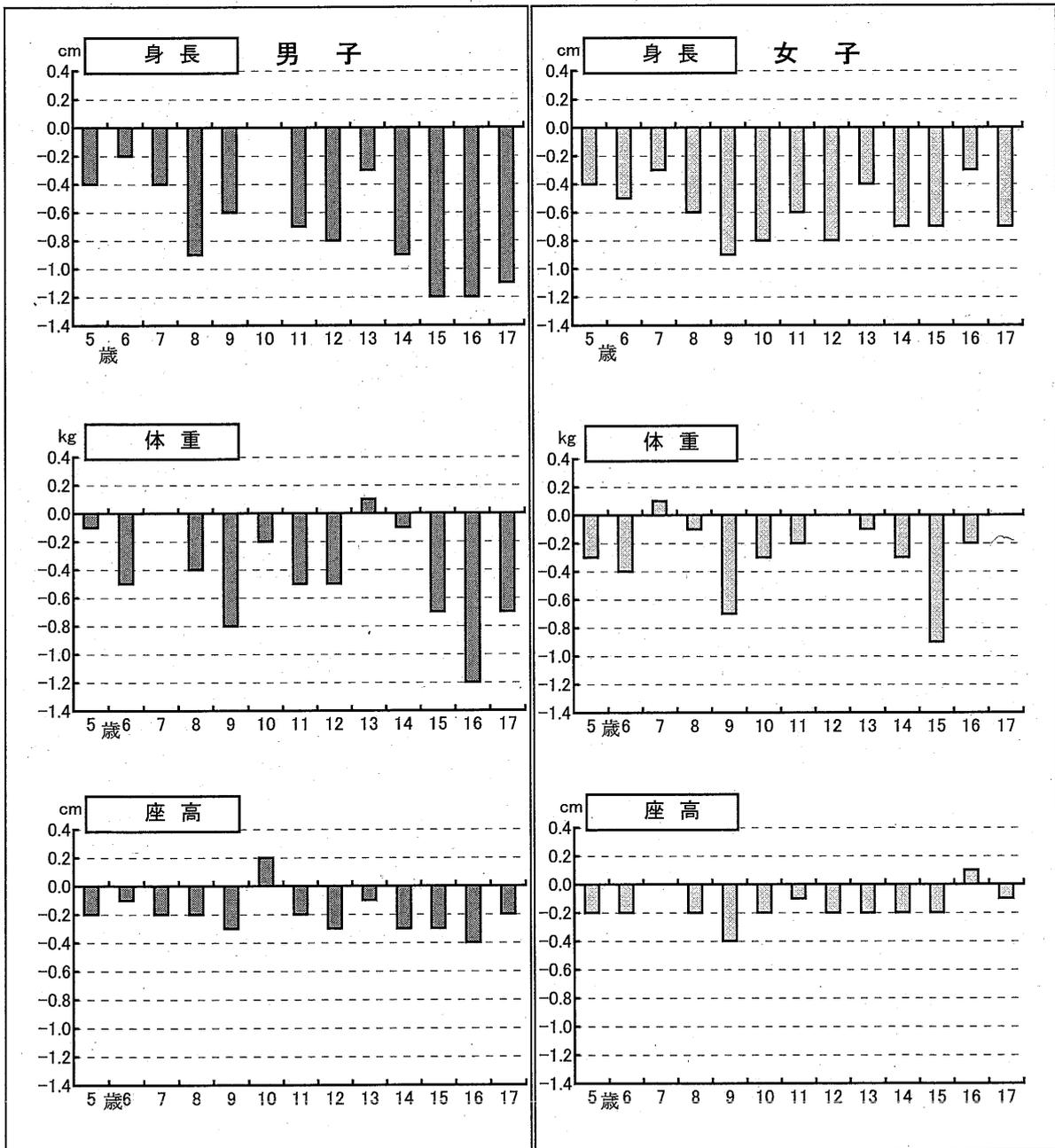
1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (図10)

平成18年度の広島県平均値と全国平均値を比較してみると、身長・体重・座高ともにほぼ各年齢において全国平均値を下回っている。

図10 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値=0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表7)

17歳時(調査対象の最高年齢)の体格から、5歳時(調査対象の最小年齢)の体格を差し引いた総発育量は、男子は身長で0.6cm、体重で0.3kg全国平均値を下回り、座高は0.1cm全国平均値を上回っている。

女子は身長で0.3cm全国平均値を下回り、体重は0.3kg、座高は0.2cm全国平均値を上回っている。

表7 男女別、総発育量の全国平均値との比較

広島県・全国		男子(63年度生まれ)			女子(63年度生まれ)		
		5歳時の体格 (平成6年度)	17歳時の体格 (平成18年度)	総発育量 B-A	5歳時の体格 (平成6年度)	17歳時の体格 (平成18年度)	総発育量 B-A
		A	B		A	B	
身長 cm	広島県	110.4	169.8	59.4	109.6	157.3	47.7
	全国	110.9	170.9	60.0	110.0	158.0	48.0
体重 kg	広島県	18.9	63.2	44.3	18.6	53.7	35.1
	全国	19.3	63.9	44.6	18.9	53.7	34.8
座高 cm	広島県	62.1	91.6	29.5	61.7	85.6	23.9
	全国	62.4	91.8	29.4	62.0	85.7	23.7

(3) 17歳体格の都道府県別比較

平成18年度の17歳における身長、体重、座高について男女別、都道府県別に比較すると次のとおりである。

ア 身長 (図11)

男子の全国順位は45位(17年度:21位)、女子は41位(17年度:41位)である。また、東日本では全国平均値を上回る都道府県が多く、西日本では下回っている県が多くみられる。

イ 体重 (図12)

男子の全国順位は35位(17年度:19位)、女子は19位(17年度:26位)である。また、男子・女子ともに北海道から東北地方の県において、全国平均値を上回っており、西日本において下回っている県が多くみられる。

ウ 座高 (図13)

男子の全国順位は30位(17年度:16位)、女子の全国順位は29位(17年度:38位)である。

図 1 1 都道府県別 17 歳の平均身長

(単位: cm)

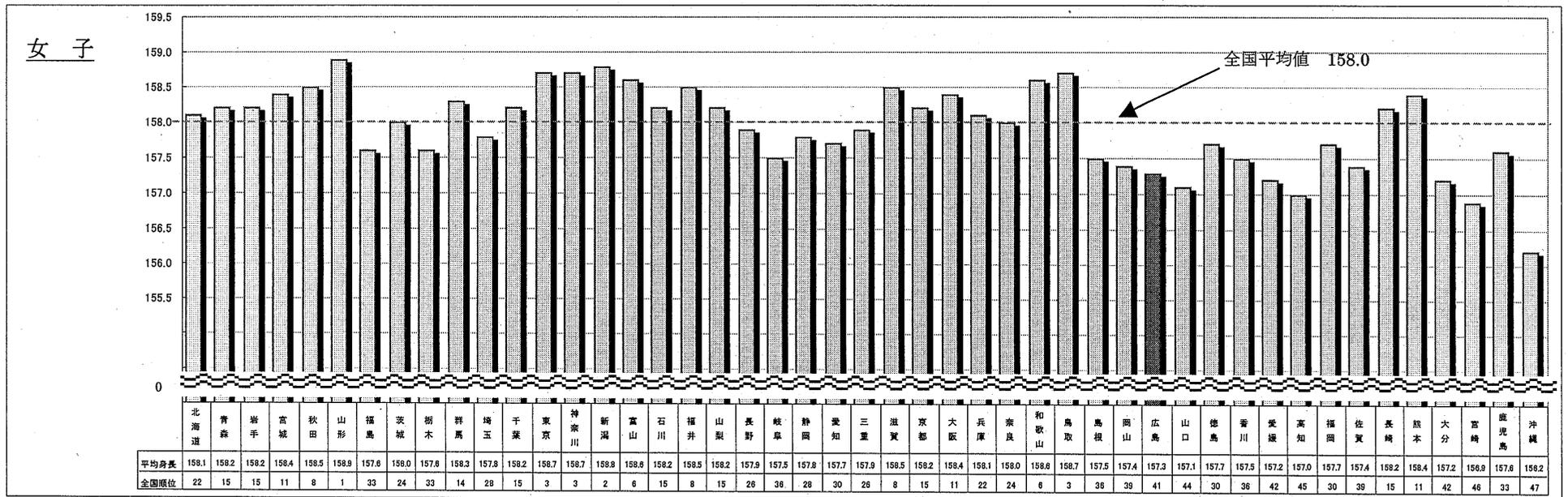
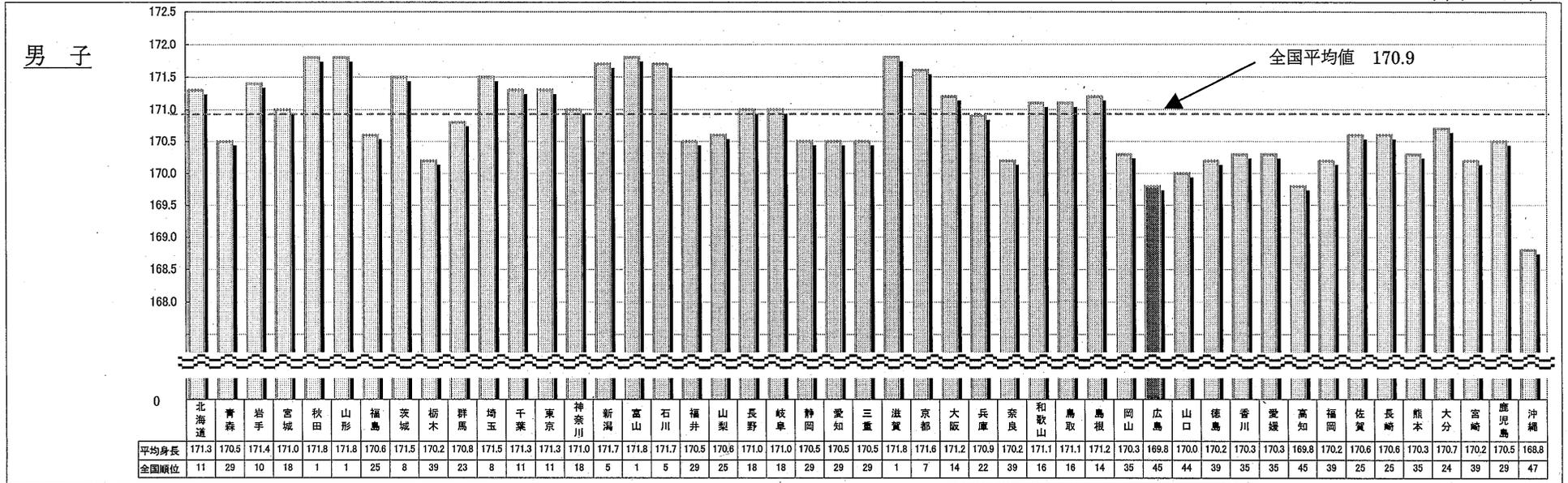
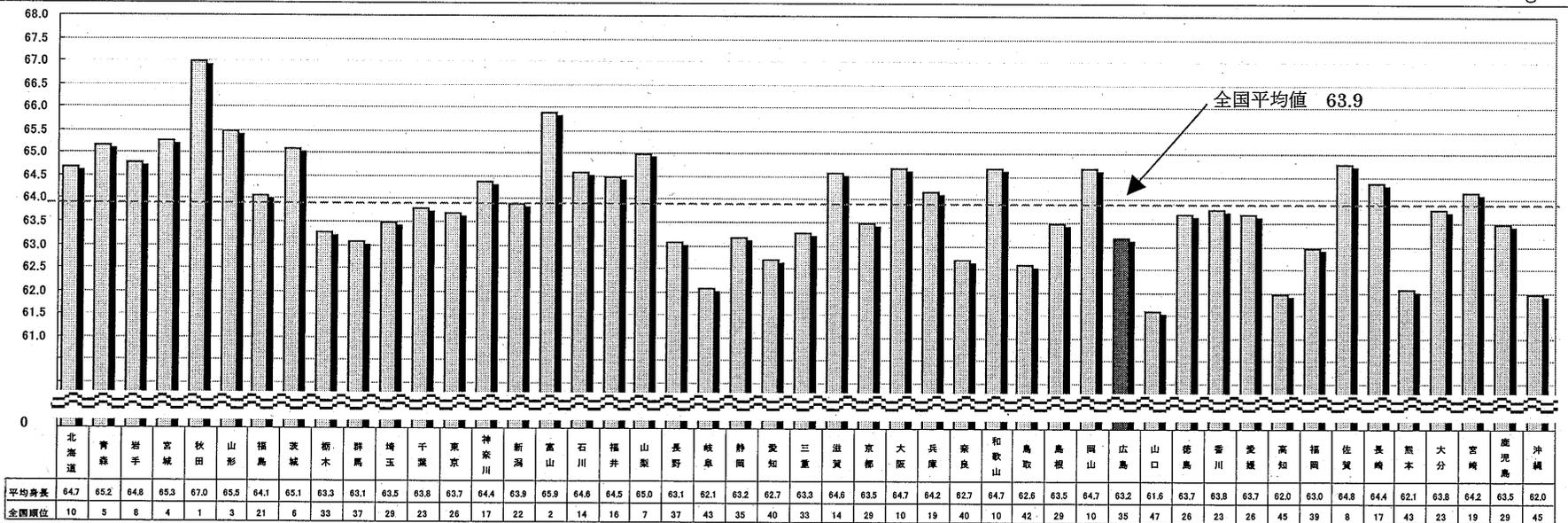


図12 都道府県別17歳の平均体重

(単位：kg)

男子



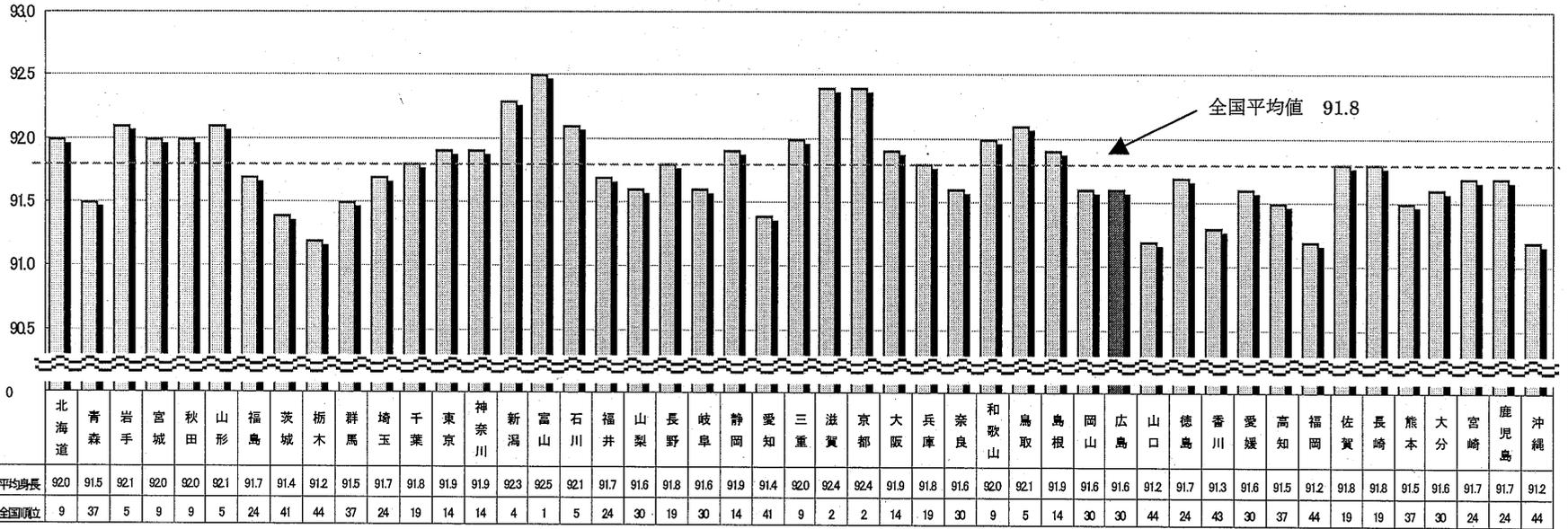
女子



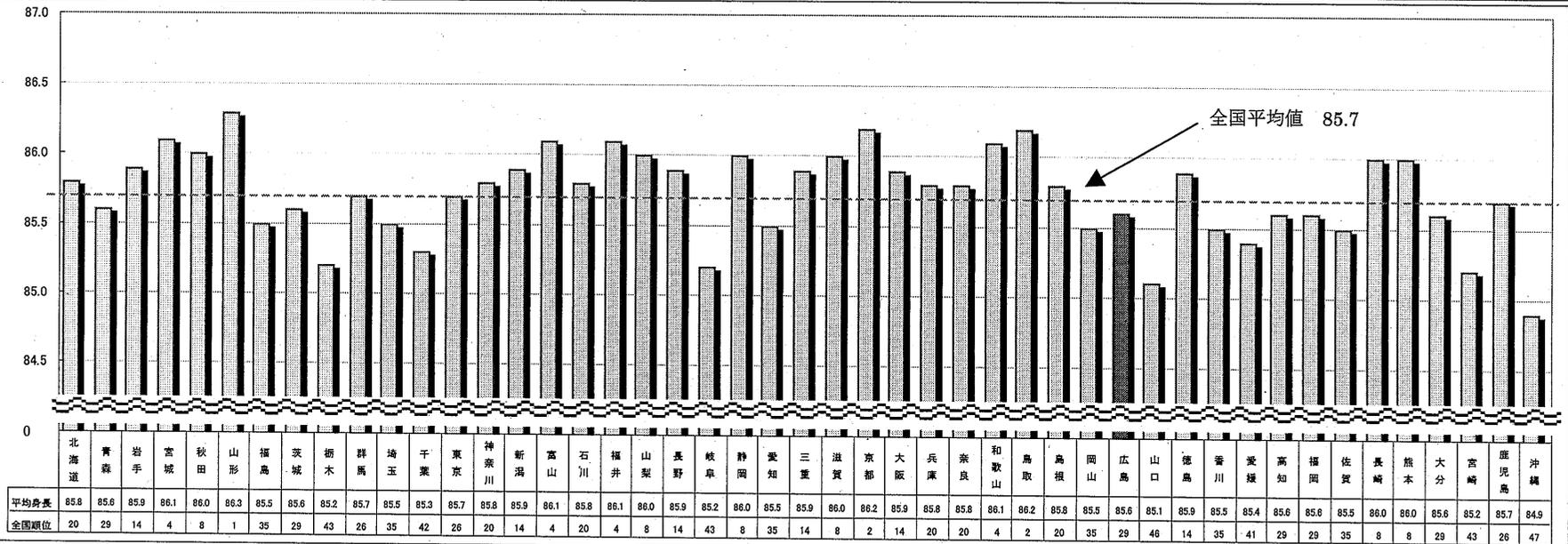
図13 都道府県別17歳の平均座高

(単位: cm)

男子



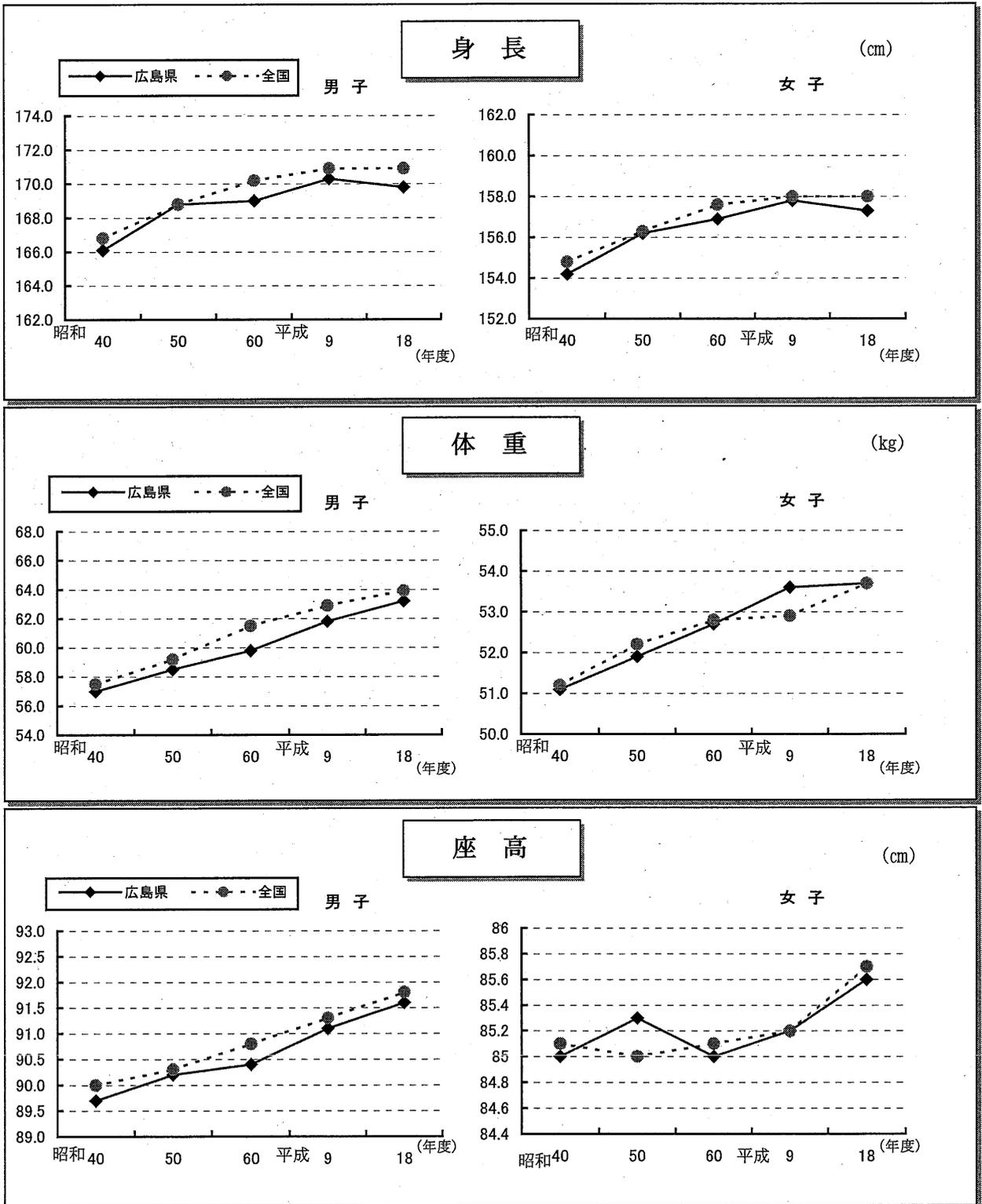
女子



(4) 17歳男女平均値の推移 (図14)

17歳男女平均値を全国平均値と比較して推移をみると、女子の体重及び座高については全国平均値を上回っている時期があるが、男子の身長、体重、座高及び女子の身長は全国平均値を下回って推移している。

図14 17歳男女平均値の推移



(5) 肥満傾向児・痩身傾向児の全国出現率との比較

ア 肥満傾向児 (図15, 図16)

肥満傾向児について、年齢別に全国出現率と比較すると男子については、5歳、11歳～15歳において、女子については、8歳、12歳～14歳において上回っており、男子・女子ともに中学校において、全国比較して高い状況にある。

図15 年齢別肥満傾向児の全国出現率との比較 (男子)

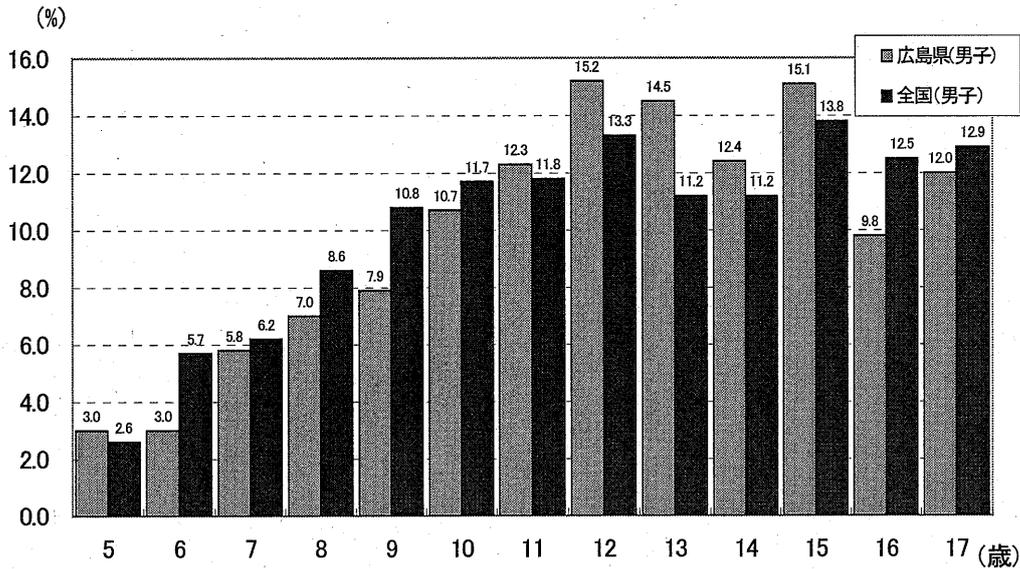
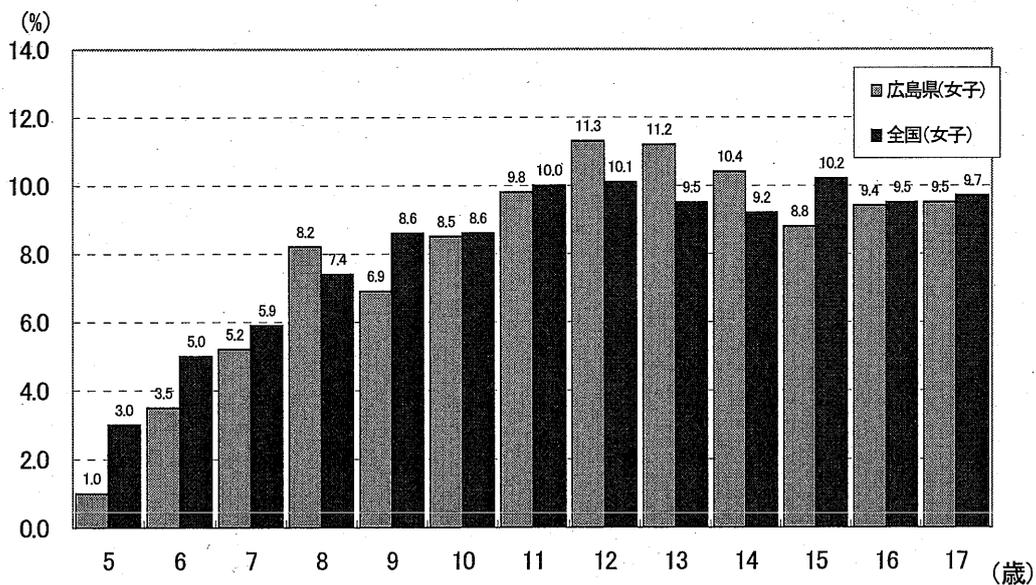


図16 年齢別肥満傾向児の全国出現率との比較 (女子)



イ 痩身傾向児 (図17, 図18)

年齢別に痩身傾向児の全国出現率と比較してみると、男子については、7歳、9歳、15歳において上回っているものの、総じて全国出現率より低い状況にある。

女子については、6歳、13歳、15歳で上回っているものの、総じて全国出現率より低い状況にある。

図17 年齢別痩身傾向児の全国出現率との比較 (男子)

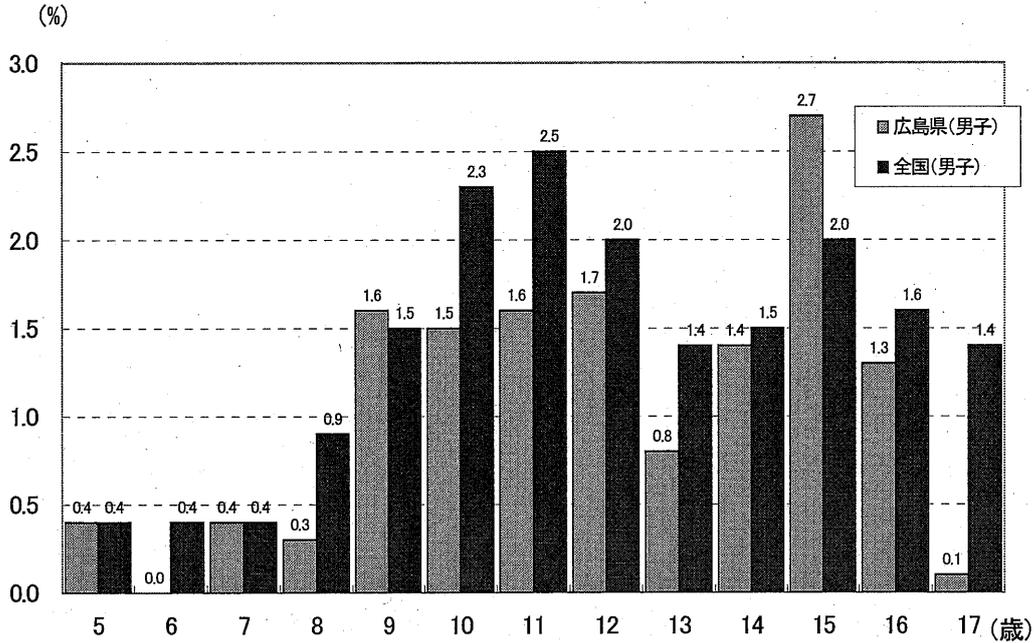
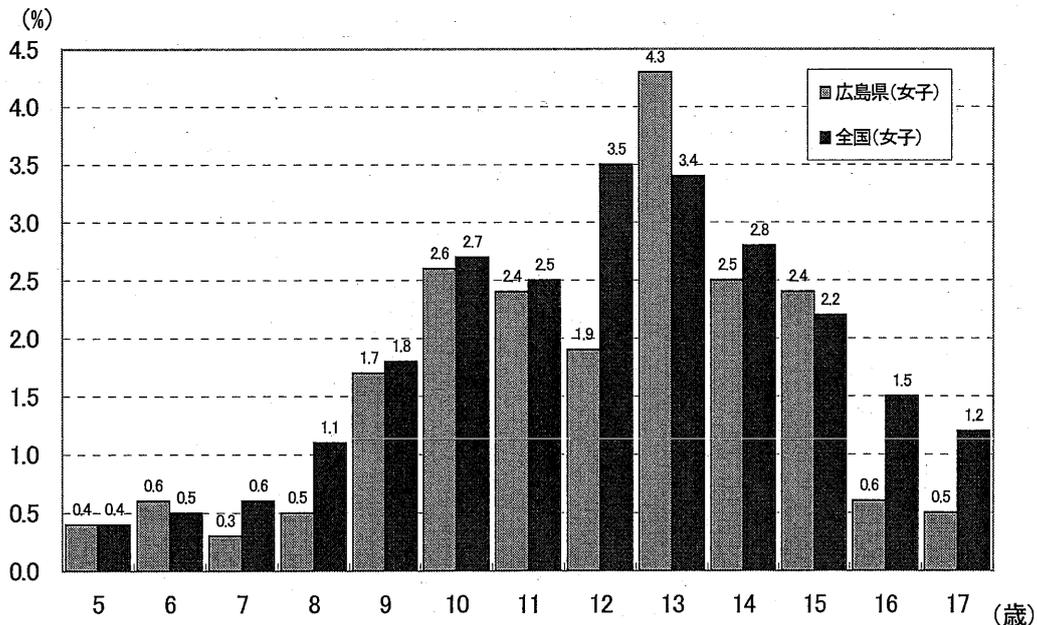


図18 年齢別痩身傾向児の全国出現率との比較 (女子)



2 健康状態 (図19, 図20, 図21, 図22)

主な疾病・異常の被患率について、全国平均値と比較してみると「むし歯(う歯)」の者の割合は、各学校(園)ともに全国平均値を下回っており、特に幼稚園では16.1ポイント下回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校において全国平均値を下回っている。

「鼻・副鼻腔疾患」の被患率は、中学校を除き各学校(園)ともに全国平均値を上回っており、特に幼稚園では4.8ポイント上回っている。

「アトピー性皮膚炎」の被患率は、各学校(園)ともに全国平均値を上回っており、特に小学校では1.0ポイント上回っている。

図19 むし歯(う歯)の者の割合 (全国平均値との比較)

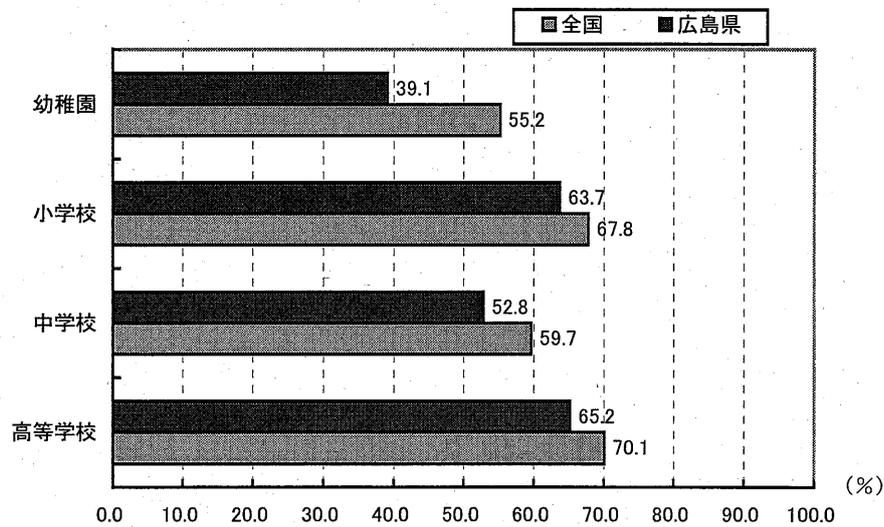
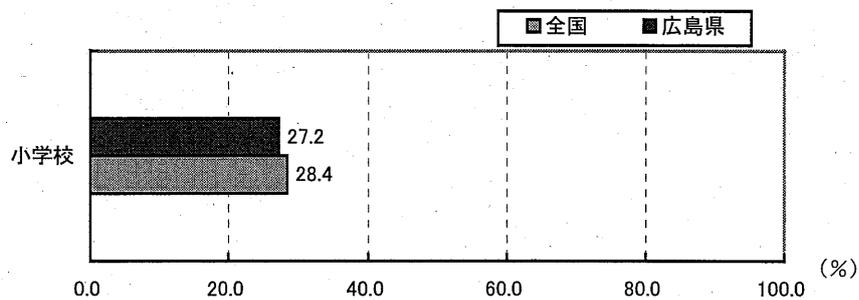


図20 裸眼視力1.0未満の者の割合 (全国平均値との比較)



(注) 幼稚園, 中学校, 高等学校は広島県数値が公表されていないため, 全国平均値とは比較していない。

図 2 1 鼻・副鼻腔疾患の被患率 (全国平均値との比較)

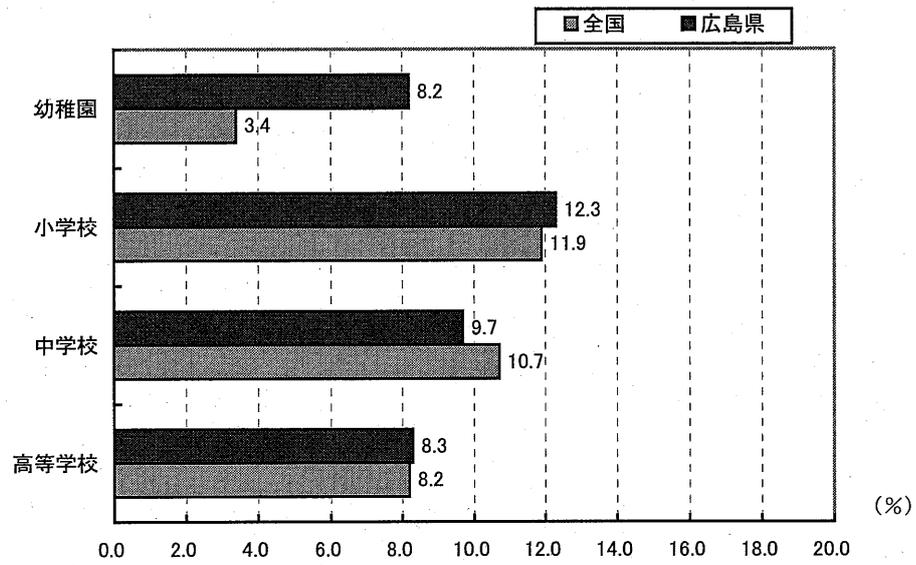


図 2 2 アトピー性皮膚炎の被患率 (全国平均値との比較)

